

会員数 58名
欠席者

 出席者38名・欠席者17名・免除会員9名
秋山憲・天野・有家・麻田・和泉享・加内・松山・中野昌・曾川
林・岸上・倉田・藤井・後藤・大山・齊賀・山本広一・会員

前々回出席率 75.9% (1/26)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

 会長 和泉 清憲
幹事 細谷 誠
会報委員長 大西 信亮

お知らせ

- ∴ 3月のプログラム
 - 2 (No.1)-客話
 - 9 (No.2)-60周年特別委員会
 - 16 (No.3)-休会
 - 23 (No.4)桜の植樹
 - 30 (No.5)IM報告

- ∴ ニコニコBOX;なし
祝誕生月
山内君 橘君 谷本君
神余君
祝結婚月
小山君
よいことがありました
横田君
ロータリー講座を終えて
和泉君

<ニコニコ会計累積/¥295,000>

- ∴ がんばるBOX;
早退します
高岡君 中野和男君
吉田ゆかりさんのお話を聞いて
頂きありがとうございます
応援をお願いします
福田君

<がんばる会計累積/¥142,500>

例会場・事務局 丸亀市塩飽町50-3 丸亀プラザホテル内

■会長挨拶

この写真、家の近所にある小学校の体育館ですが、この大きい箱、何だと思いませんか？

この体育館は、災害時の避難場所となっていることから、補助金を利用して設置されたものです。おかげでうちの家も都市ガスが来たのですが、お分かりになる方もおいでになると思いますが、ガスヒートポンプの室外機です。ヒートポンプという言葉はよく耳にしますが、今日はその仕組みについてお話いたします。

ヒートポンプは熱効率の良さから、太陽光発電やバイオマス発電などと同じ再生可能エネルギーの一つとして扱われます。身近な様々な製品に使われています。日本は夏は暑く冷房が必要で冬は寒く暖房が必要であることから、高効率のヒートポンプの先進的にヒートポンプの開発が行われてきています。かつて北海道では冷房の必要がなく、化石燃料を燃やして暖房にする設備さえあれば十分だったのですが、十数年前から温暖化の影響でエアコンが普及してきております。同様のことがヨーロッパでも起きており、ヒートポンプを利用したエアコンの設置が世界中に広がっています。暖房の例ですが、外気を取り込みコンプレッサーで圧縮、圧縮された高温になった空気に冷媒(昔はフロンガス、今は代替フロン)に触れさせ温め、温まった冷媒を室内まで運び、室内機内で温められた冷媒に触れた空気をファンで放出し、部屋を暖めます。今度は圧縮されている空気を一気に膨張させ室外に放出します。冷房はこの逆で、室内の空気を取り込み回収し、圧縮して外気温より高くして外に放出します。ヒートアイランド現象は、このエアコンの廃棄熱が原因です。触媒を圧縮するためのコンプレッサーを動かす動力が電気だとすると、電気ヒーターに比べて約7倍の効率で働くこととなります。この動力源は電気以外に、さっきの体育館横にあったガスヒートポンプの場合だと、ガスエンジンです。



■幹事報告

- ①地区大会登録について 今年度は高松での開催であり、またガバナー年度も近いことから全員登録をお願いいたします。

■理事会報告

- ①3月から5月のプログラムについて
来週のクラブフォーラムは「60周年事業進捗報告」に変更します。
5月25日の例会は60周年記念式典のリハーサルにあてます。
- ②善行表彰の予算案について
今回は対象となる団体、個人が多いため、一件あたりの金額を削減します。
- ③来週の例会終了後、「未来への手紙」発送にかかる封入作業を行いますのでご協力をお願いいたします。

■次年度理事会報告

- ①地区補助金について → 善行表彰に決定
- ②4/16の地区協議会について
- ③IDMについて → 5/11の夜間開催
- ④細則の変更について → アンケートを実施予定

■例会事業;特定非営利活動法人未来ISSEY 代表理事 株式会社インペックス 吉田ゆかり

「病気の子ども・母親・地域のこれからの創造する拠点「みらいキューブ」をつくる」本日は小児がんの事、それから小児がん患者とその家族の支援についてお話させていただきます。



私がこの様な活動を始めたきっかけですが、次男が小学校3年生の時に頭が痛いということで、原因は小児がんでした。2年半の闘病をして旅立っていきました。その時の闘病生活にたくさんの後悔がありました。そのことをきっかけにたくさんの皆さんが闘病生活を前向きに過ごせる様にと、こうした活動を始めることにしました。

本日お話するタイトルですが「病気の子ども・母親・地域のこれからを創造する拠点『みらいキューブ』をつくる」となります。

まず、皆さん「ゴールドリボン」についてご存知でしょうか。ピンクリボンやオレンジリボンなどは広く知られることになりましたが、「ゴールドリボン」についてはあまり知られていないのが現実だと思います。ゴールドリボンは小児がん患者支援の世界共通のシンボルマークです。小児がん患者は日本においては年間2,000～2,500人が発症する希少がんで、子どもの病死原因の第一位であるという現実もあります。小児がん患者の子どもが苦しむのはもちろんですが、その家族も闘病に伴い急激な変化を強いられます。例えば私の場合は1年間の入院で兄弟が面会できたのはたったの5回だけでした。もちろん、本人のケアもありますし、それから我が子が病気のことを隠しがちな保護者のケアもあります。

まず、本人の治療に関するケアで述べると

- ・多くの輸血が必要→献血
- ・造血幹細胞移植→骨髄バンクへの登録「人間が人間を救う」
- ・外見の変化→ヘアドネーション「抗がん剤により脱毛していく子供達へのサポート」などがあります。治療に伴い、外見が変化することで小児がんは治ったけど、見た目の変化から不登校になってしまう子供もいます。

それから、治療に関するケアだけではなく「社会からの孤立」という問題もあります。私たちの活動の1つにはGB(グッドブラザー)という学生を主体としたボランティアがあります。これは小児がんで学習の面や心のケアをするボランティアを育成し、Zoomで共にゲームをしたり、手作りの問題集を解いたり心と学習のケアを行っています。それ以外にもハロウィンなどのイベントを共に行なったりしています。

また、「レモネードスタンド」という活動をご存知でしょうか。これはアメリカの横紋筋肉腫の子供がお金の事を学ぶということから始まった活動で日本でも広まりつつあります。売上の一部を活動資金に充てています。

未来ISSEYの目標の1つは「今も未来を見ること」10年後に香川県でこの様な未来を作りたいという10の目標を立てています。未来ISSEYの「ISSEY」は「世界の一員」という意味を含みます。そこで、大学を出てなくても、出来る仕事があるんじゃないかと考え子どもとその家族のための就労支援を行うための拠点として現在、地元の丸亀市に、子どもたち・家族・そして地域の人々が集まれるホーム(拠りどころ)となる場所『みらいキューブ』5月7日にオープンを予定しています。

最後に、皆さんにお願い、ご相談があります。9月に世界小児がん啓発月間があります。今年目標として香川県のどこかをゴールドにできないかなと考えております。皆さんのお力、知恵を貸して頂きたいと考えています。

未来ISSEYと共に病気の子ども達、医療的ケア児や障害児だけではなく特に福祉との間にいる子ども達とその家族をご支援頂けると嬉しいなと思っております。どうぞ皆さん、よろしくごお願い致します。

<https://miraiissey.com> 未来ISSEY

※紙面の都合上、2/18の市民講座「NISA制度を活用した資産形成(東原隆啓会員)」については次号に掲載させていただきます。ご了承ください。